



## デバイスとサービスの導入準備

ライブデバイスとモデルデバイスの両方を CDO に対して導入準備できます。モデルデバイスはアップロードされた構成ファイルであり、CDO を使用して閲覧および編集できます。

ほとんどのライブデバイスおよびサービスでは、Secure Device Connector が CDO をデバイスまたはサービスに接続できるように、オープンな HTTPS 接続が必要となります。

SDC とそのステータスの詳細については、[Secure Device Connector \(SDC\)](#) を参照してください。

この章は、次のセクションで構成されています。

- [SSH デバイスの導入準備 \(1 ページ\)](#)
- [CDO からのデバイスの削除 \(3 ページ\)](#)

## SSH デバイスの導入準備

現時点では、CDO は、SSH デバイスの導入準備用に限定された暗号セットをサポートしています。サポート対象の暗号方式：

```
aes128-ctr, aes192-ctr, aes256-ctr, aes128-gcm, aes128-gcm@openssh.com,  
aes256-gcm, aes256-gcm@openssh.com
```

サーバーがサポートする暗号を確認するには、SDC にログインし、コマンド `ssh -vv <ip_address>` を実行します。SSH デバイスを正常に導入準備できるようになりました。

### 導入準備手順

SSH を使用して Firepower Threat Defense デバイスを導入準備するには、次の手順に従います。

### 始める前に

デバイスを導入準備する前に、「[Cisco Defense Orchestrator の Secure Device Connector への接続](#)」を参照してください。

## 手順

- 
- ステップ 1** ナビゲーションウィンドウで、[デバイスとサービス] ページをクリックします。
- ステップ 2** 青色のプラスボタン  をクリックして、デバイスを導入準備します。
- ステップ 3** [統合 (Integrations) ] タイルをクリックします。
- ステップ 4** デバイスに名前を付けます。
- ステップ 5** **Secure Device Connector (SDC)** ボタンをクリックして、このデバイスが通信するネットワーク内の SDC を選択します。デフォルトの SDC が表示されますが、SDC 名をクリックすることで SDC を変更できます。
- ステップ 6** [統合 (Integrations) ] ドロップダウンメニューで、[汎用SSH (Generic SSH) ] を選択します。
- ステップ 7** デバイスの場所として FQDN または IPv4 アドレスを入力します。デフォルト SSH ポートは 22 です。
- ステップ 8** [移動 (Go) ] をクリックします。CDO はデバイスを特定し、設定を統合する準備をします。
- ステップ 9** SSH フィンガープリントを [ダウンロード (Download) ] し、ローカルに保存します。これまでに SSH 経由でこのデバイスに接続したことがない場合は、このフィンガープリントを使用してデバイスを確認できます。
- ステップ 10** 導入準備するデバイスのログイン情報としてユーザー名とパスワードを入力します。CDO は、正しいログイン情報がないと、既存の設定を正常に読み取ることができません。
- ステップ 11** (オプション) このデバイスに以前に [イネーブルパスワード (Enable Password) ] を設定した場合は、それを入力します。
- ステップ 12** (オプション) ドロップダウンメニューから [設定コマンド (Configuration Command) ] を選択するか、テキストボックスにカスタムコマンドを入力します。このコマンドは、デバイスの設定として使用されます。OOB が有効になっている場合、CDO は変更をチェックします。[設定 (Configuration) ] ページで現在の値を表示できます。デバイスが CDO に正常に導入準備された後に、このコマンドの変更が可能になることに注意してください。
- ステップ 13** [接続 (Connect) ] をクリックします。
- (注) ログイン情報が正しくない場合は、接続の詳細を確認するように求められます。ここでログイン情報を再入力できます。ログイン情報を修正せずに確認を終了すると、デバイスの [デバイスとサービス] ページに統合インスタンスが表示されますが、デバイスは導入準備または同期されていません。
- ステップ 14** (オプション) このデバイスにラベルを追加します。
- ステップ 15** [続行 (Continue) ] をクリックします。
- ステップ 16** デバイスが CDO に導入準備されます。[終了 (Finish) ] をクリックします。
- ステップ 17** [デバイスとサービス (Devices & Services) ] ページに戻ります。デバイスが正常に導入準備されると、設定ステータスが [同期 (Synced) ]、接続状態が [オンライン] と表示されます。
- (注) デバイスが導入準備されると、実行する設定コマンドの変更が可能になります。カスタムコマンドを使用するか、**CLI マクロ** を作成できます。

**ステップ 18** (オプション) 必要に応じて、デバイスの [ノート (Notes) ] ページにデバイスに関するノートを入力できます。詳細については、「[デバイスノート](#)」を参照してください。

---

関連情報 :

- [デバイス管理用の CLI マクロ](#)
- [Cisco IOS または SSH から CDO への変更の読み取り](#)
- [設定変更の読み取り、破棄、チェック、および展開](#)

## CDO からのデバイスの削除

CDO からデバイスを削除するには、次の手順を使用します。

### 手順

---

**ステップ 1** CDO にログインします。

**ステップ 2** [インベントリ] ページに移動します。

**ステップ 3** 削除するデバイスを見つけ、そのデバイスの行でデバイスをチェックして選択します。

**ステップ 4** 右側にある [デバイスアクション] パネルで、[削除] を選択します。

**ステップ 5** プロンプトが表示されたら、[OK] を選択して、選択したデバイスの削除を確認します。[キャンセル] を選択して、デバイスを導入準備したままにします。

---

